

横浜開港資料館 令和元年度第 2 回企画展示
横浜開港 160 周年記念

開港前後の横浜 村びとが見た 1858～1860



開港後の横浜を描いた肉筆画 当館蔵(新堀豊彦氏寄贈)

1. 展示会期など

会 期: 令和元年 7 月 20 日(土)～10 月 27 日(日)

会 場: 横浜開港資料館 新館 企画展示室

開館時間: 9:30～17:00(入館は 16:30 まで)

7 月 26 日(金)、8 月 23 日(金)、10 月 13 日(日)は、展示室のみ 19:00 まで開館
(入館は 18:30 まで)

入 館 料: 一般 200 円、小中学生 100 円 10 月 13 日(日)、14 日(月・祝)は入館無料

休 館 日: 月曜日(但し祝日の場合は開館し、翌日休館)

主 催: 横浜開港資料館

共 催: 横浜市教育委員会

後 援: 朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、
毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk

2. 展示趣旨

今年は横浜が開港した安政 6 年(1859)から 160 周年を迎えます。本展では、開港の前後 1 年間ずつ(1858 年半ば～1860 年半ばの 2 年間)に対象時期をしばり、横浜市内内外の村に残されてきた歴史資料から、横浜の開港場(関内地区)の様子と周辺の村への影響を、わかりやすく紹介します。

3. 展示構成

開港前の横浜村って? / 中国の戦争のうわさ / 条約、結ばれる / 新しいお奉行さま / 波止場の工事 / 開港 / 開港場を一望しよう / 日本人の町 / 外国人、横浜へ / 馬と横浜と戦争 / 攘夷のはじまり

4. おもな展示資料、みどころ（全展示数 約 80 点）

- ・ 横浜の最初の波止場は誰がつくったのか？



「横浜村波戸場仕様帳」神奈川県立公文書館蔵

ミナト横浜の象徴と言えば波止場（大棧橋）。1859 年の最初の波止場は、埼玉県深谷市の名主・笹井万太郎が建設を請け負ったとされてきました。しかし、この資料は横須賀に住む大物の石材調達請負人・永嶋庄兵衛が、波止場建造に関与していたことを示唆します。研究者にも知られていなかった資料で、港のルーツに新たな光を投げかけます。

- ・ **初公開！** 開港翌年の横浜の絵図



「横浜絵図」当館寄託（上松徹氏蔵）

開港翌年（1860 年）ごろ、まだ外国人居留地が本格的に開発される前の横浜開港場を描いた手書きの地図。この時期の横浜の地図は珍しく、町の発展過程を探る大事な手がかりになります。

5. 展示関連事業

展示関連講演会「近代外交事始め—開港前後の幕府と欧米外交官たち」

講師：佐野真由子氏（京都大学大学院教育学研究科・教授）

日時：8 月 31 日（土）14:00～15:30 会場：当館講堂 受講料：500 円

定員：80 名（応募者多数の場合は抽選） 申込方法：往復はがきにて事前申し込み

展示担当者による展示関連講座

（1）「開港前後の横浜って？」

日時：8 月 17 日（土）14:00～15:00 会場：当館講堂 受講料：200 円（ただし高校生以下は無料）

* 小学校高学年以上向けの内容です

定員：50 名（応募者多数の場合は抽選） 申込方法：往復はがきにて事前申し込み

（2）「開港前後の横浜—地域に残された歴史資料から」

日時：9 月 28 日（土）14:00～15:30 会場：当館講堂 定員：当日先着 80 名 受講料：300 円

展示担当者による展示解説

7 月 26 日（金）・8 月 23 日（金） 18:00～、10 月 26 日（土） 15:00～

各回 30 分程度で、事前申込不要です。入館券をお持ちの上、企画展示室入口にお集まりください。

展示図録『開港前後の横浜』の販売

A4 判、64 頁、1,000 円+税（予価）

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	吉崎 雅規	TEL 045-201-2136
	館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は、広報（田中）へご連絡ください。